

能登半島地震災害支援

能登半島地震で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

全国のYMCAは、内閣府およびJVOAD(全国災害ボランティア支援団体ネットワーク)からの要請を受け、金沢市の「いしかわ総合スポーツセンター」に開設された「1.5次避難所」にスタッフを派遣しています。「1.5次避難所」とは、高齢者や障がいのある方、妊婦、乳児など特に配慮が必要な方々を、ホテルなどの「2次避難所」に移ることができるまで受け入れるものです。YMCAはこれまでの災害支援の経験をもとに、避難所運営のアドバイスをを行っています。また、輪島市の避難所では、東京YMCAを中心に同様の派遣を続けています。

2月上旬までに熊本YMCAから金沢市に派遣された4名から支援活動を報告します。今後の支援活動について共に考えていきましょう。



支援活動の初動 全国からのサポートが力に

熊本YMCA学院 校長 中村 賢次郎さん
 [派遣期間]1月19日(金)～21日(日)

これまでYMCAでは、さかのぼると関東大震災、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、水害など様々な災害支援を全国協力で行ってきました。能登半島地震では、1月1日の発災後はまず関係者の安否確認、全国YMCAでの情報共有などを進めました。7日からは日本YMCA同盟からスタッフが現地に入り、視察と関係者との協議が行われました。続いて、1.5次避難所の開設準備、その後、1月11日からいしかわ総合スポーツセンターでの避難所運営アドバイザーとしての役割が始まっています。

避難されている皆さんは能登半島の被害が大きい地域から被害の少なかった金沢市にバスや自衛隊のヘリコプターで移動しています。1.5次避難所にいる皆さんは、生活自立が可能であれば2次避難所に移動されますので、今はサポートが必要な方が残っていらっしゃる状況です。数名で囲らされていたご高齢の方とお話すると、「私は輪島、この人は珠洲。みんな違うところから来ているのよ。助かっただけありがたい」「熊本からね？遠くからありがたいね」と話してくれました。しかし、この先の不安は隠せない様子でした。

私と大久保さんが派遣された時、神戸、仙台、そして私たち熊本の、それぞれ大きな地震を経験した地域のYMCAからスタッフ等が集まっています。神戸と仙台から派遣された彼らは、熊本地震の時にも支援にきていただいた人たちです。このような全国からのサポートが、YMCAの災害支援の大きな力になっています。



神戸、仙台的YMCAからの派遣者と共に



災害時のYMCAの役割とは

益城町総合運動公園 所長 大久保 和生さん
 [派遣期間]1月19日(金)～26日(金)

いしかわ総合スポーツセンターは、石川県により運営されている避難所です。朝と夕方に全体会議をして、情報交換をしながら運営が行われています。医療、保健、福祉の専門家が強みを活かしながら 高齢者の健康を守るために活動されています。避難所運営は組織が如何に力を発揮して支援ができるかが大切です。私たちYMCAは専門家の皆さんを結びつけ、避難所運営に関わる組織と組織の潤滑油としての役割を担っています。

スポーツセンターではメインとサブのアリーナ、マルチパーパスルームが避難所となっています。メインアリーナは熊本地震の時のようなダンボールで仕切った屋根のないものではなくテントが設置されています。プライベートが守られる半面、中の様子が分からないことから保健師、看護師などの専門家の方が巡回をするなどして、避難されている皆さんに寄り添っています。

高齢者が多く、外に出て身体を動かすことが少ないため、ラジオ体操をするなど、運動の機会を提供しています。また、子どもたちのための広場を設置して、心と体の健康を守ることを心がけていました。子どもの支援をする団体などと日々話し合いながら、どのような支援が必要かを検討しています。

今後の展開として、①災害支援募金の継続、②現地情報の把握、③YMCAが出来る支援の見極めが大切になってきます。多くの方と力を合わせて一日も早い復興を願いながら支援を進めていきたいと思えます。



子どもたちのための広場を設置

Pickup

熊本YMCA学院 卒業特集



こども保育科 卒業発表会



建築科 卒業制作発表会



ホテル観光科 おもてなし修学旅行 活動報告会



被災された方に寄り添った支援を

YMCA赤水保育園 皆見 治男さん
[派遣期間]1月25日(木)～31日(水)

私が派遣された時は、避難所の開所から数週間経過しており、65歳以上の高齢者の割合が85%以上でした。また、1週間以上滞在している人が80%以上、うち10日以上の方が半数以上を占めていました。長期滞在者が増える中、入所者のニーズも「温かいご飯が食べたい」「お風呂に入りたい」など、今まで我慢してきた日常の生活を取り戻したいという思いが出てきました。そうしたニーズに応えるため、昼食は大手のホテルの料理人たちが来て温かい料理を提供して、入所されている皆さんも喜んでいらっしゃいました。

避難生活が長期化する中、内閣府のYMCAに対する避難所運営支援の依頼も当初は1月末をめどにしていたのですが、引き続き3月末までの協力依頼がありました。これは避難所でのYMCAの働きが認められたものと思っています。今後フェーズが様々な変化する中でも、被災された人たちに寄り添った、きめ細やかな支援を続けることがYMCAに求められていると思います。



これまでの蓄積を活かして

熊本YMCA総主事室 牛嶋 加佐喜さん
[派遣期間]2月2日(金)～7日(水)

いしかわ総合スポーツセンターは、トレーニングジムやプールは通常営業している一方で、体育館では能登から避難された方々の生活を守るという「日常」と「非日常」が同居している状態でした。

高齢者が多く、通常は発災直後の医療支援を担うDMAT(災害派遣医療チーム)を中心とした医療班が1カ月以上対応する異例の事態となっていました。日々、専門家チームの皆さんが入所されている方々を巡回して情報を全体で共有し、課題に対して最善策を模索しました。

他の避難所では子どもたちが時間を持て余している状況もあると聞きました。そこにYMCAのリーダーの活躍の場があるのではと感じます。

様々な不安がある人の心の安定が復興につながると思います。YMCAがこれまで行ってきた「心のケア」プログラムを通して蓄積してきた力を発揮することが大切な役割だと感じました。

井芹中学校から募金の贈呈

熊本市立井芹中学校の生徒会の皆さんが中心となって集めた能登半島地震災害支援募金が熊本YMCAに贈呈されました。始業式から5日間、生徒昇降口で生徒の皆さんらに呼びかけるなどして集まった募金は57,777円にのぼりました。2月2日(金)に熊本YMCA本館で行った贈呈式では、生徒会の皆さんから「自分たちは現地で直接お手伝いすることができないから、このような形で協力できてよかった」などの声が聞かれました。



能登半島地震災害支援募金

全国のYMCAが取り組む能登半島災害支援のための募金へのご協力をお願いいたします。

募金使途

- 被災地近隣YMCAと協働して行う、能登半島地震の被害を受けた地域への支援活動
- YMCAが関係する災害支援団体との協働で行う支援活動
- 子どもを主に、被災者の心のケアのための活動、および、支援者のための心のケアのための活動

期間 第2次募金期間 2024年3月

31日まで(復旧復興状況の変化を考慮し、期間再延長する場合があります)

募金方法 熊本県内の各YMCAにお持ちいただくか、Webページよりクレジットカードにてお申込みください。



COM・PASSION II

おもいやりとやさしさ Vol.25

総主事 光永 尚生



善きサマリア人のたとえ話

今年は、新年早々に大きな出来事が続きました。天国に召された方に哀悼の意を表します。前回のコラムは年内に書いていたため、ふれることができませんでしたので、3月号ですがふれたいと想います。現在も、多くの方が困難の中で過ごされています。世界の紛争地帯での苦しみ、北陸の災害現場の現状とその困難さを考える時、胸が痛みます。私たちは、このような時に、相当な無力感にさいなまれますが、どのようにすればよいのでしょうか。

YMCAの先達でもある阿部志郎さんに、私たちのYMCAのあるべき姿をお聴きしたことがあります。YMCAには、4つの方針がある。①いつも時代の先端を行くパイオニアのような働きをすること。②時代の最後からついていき、最後まであきらめないこと。③時代の流れがあっても、敢えて流れに逆らう勇気を持つ行動を行うこと。④最後に、どんなことがあっても、決して、誰も取り残さないで、そっと寄り添うこと。これなどは、まさに、「誰も取り残さない」という、現代のSDGsの大切にしている価値と同じことを示しています。私たちのYMCAは遠い昔の設立の時から、社会の中で「そっと寄り添う」ことを希求してきました。

聖書の中に、「善きサマリア人」という箇所があります。3人の通りすがりの人たちの行動を通して、私たちに行動規範としての示唆が与えられています。強盗に襲われたある人が倒れてい

た時の行動で、最初に来た人は、近づかず、次の人は触れもしませんでした。そして最後に通りかかった、サマリアの人は、自分の持っている全財産を預け、足りなければさらに持ってくる」と告げ、その倒れた人を救おうとしたのです。

この行動は、戒律など何にも縛られずに、ただ、哀れに想ったからの行動でした。「隣れに想う」と訳されている言葉は、「共に苦しむ」という意味を持ちます。さらに聖書では、「隣人とは誰か」と問いかけています。「隣人になる」とは、憐れみをもって関係性を創り、「共に苦しむ」ことではないでしょうか。聖書は「行って、あなたも同じようにしなさい。」と結んでいます。

今、私たちは何をすべきなのか。日々祈りの中で葛藤していますが、行って、同じようにしなさいという結びの言葉が、私たちに何かを語りかけてくれているようです。

R | E | P | O | R | T

国際

彰化YMCAボランティアツーリズム 熊本地震支援のために

1月29日(月)～2月2日(金)、4回目となる台湾・彰化YMCAボランティアツーリズムを受け入れました。熊本地震支援ボランティア活動と国際交流を目的とし、台湾各地の学生12名、彰化YMCAスタッフ1名が来熊。被災した農家の農作業のボランティアでは、トマトの栽培のためのビニールハウス作りやいちご農家の作業の手伝いを行いました。普段はできない体験に学生たちは歓喜の声を上げながらのボランティア活動となりました。

YMCA黒川保育園の子どもたちとの交流も行いました。楽しいゲームを通して言葉の壁を越えてす

ぐに打ち解けた様子。言葉を教え合う微笑ましい瞬間や子どもたちからの歌のプレゼントに別れを惜しむ姿も見られました。熊本YMCA学院こども保育科の学生や熊本県立大学学生との交流もあり、若い世代が台湾と熊本の未来の懸け橋となることを予感させる機会となりました。

今後も熊本YMCAは若者と子どもたちの国を越えた交流を大切にし、共に生きる社会づくりと平和な世界をつくり出す熊本YMCAの使命の実現に力を注いでいきます。

総主事室 大塚永幸

17
平和と公正を
すべての人に

国際

日中韓YMCAから73名が集結 平和フォーラム

20年の歴史を重ねる日中韓YMCA平和フォーラムが2月1日(木)～4日(日)の日程で中国上海で開催されました。3国から73名が参加。各国代表からの平和の取り組みについての発題に始まり、復旦大学教授の胡令遠さんから「平和の船を共に漕ぐ」をテーマに基調講演がなされました。

その後、魯迅記念館や内山書店、大韓民国臨時政府跡、上海YMCAなどを訪問し、戦時中から現在までの上海の歴史を学びました。途中、シニアとユースに分かれて活動し、ユースグループは平和を実現するためのユースアクションの作成を行いました。

た。各グループ趣向を凝らしたアクションプランを宣言。国同士ではぎくしゃくする3カ国ですが、人と人との絆やお互いを認め合う精神が真の平和をつくり出す源になることを目の当たりにしました。

ユースとして参加した中国からの留学生で熊本YMCA学院ホテル観光科1年生の金漢林さんは通訳としても活躍。「YMCAの世界的な規模を感じ、平和を真剣に考えるよい機会となりました。社会に出てもこうした平和を考える交流に積極的に取り組みたいです」と感想を述べました。

熊本YMCA学院 中村賢次郎

16
平和と公正を
すべての人に

キリスト教

熊本バンド結盟から148周年 記念行事を開催

熊本洋学校で教師ジェーンズの薫陶を受け、花岡山でキリスト教を奉じ、この教えを日本全国に宣布しようと結盟した青年たち。日本におけるキリスト教プロテスタントの源流の一つとなった「熊本バンド」結盟148周年の記念行事が実施されました。1月29日(月)に日本キリスト教団熊本草葉町教会で行われた記念講演会では同志社大学神学部教授の村上みかさんが「愛と自由に生きた人々」をテーマに講演。「信仰から神への愛と喜びがあふれ出て、隣人に自由に奉仕することができること＝神への感謝と隣人への愛に生きる自発的な喜びに満ち

た生活を自由に送ることができる。このような自発的、自治自立、自主独立の精神が熊本バンドに引き継がれて行ったものと考えられる」と語りました。

30日に花岡山山頂で実施された早天祈祷会では同じく村上さんが「命を受ける」と題して奨励。昨年度まではコロナ禍であったため山上での集合礼拝を制限していましたが、今年は制限なしとし、150名以上が山頂に集いました。当日の様子は熊本YMCAのWebサイトで動画配信しています。

熊本バンド148周年記念行事実行委員会事務局 松本光広

16
平和と公正を
すべての人に

YMCA年末募金 期間延長について

昨年11月から1月末の予定で取り組み、多くの方にご協力いただいているYMCA年末募金の期間を3月末まで延期することとなりました。2月9日時点の募金額は9,634,827円です。より多くの子どもたちの支援、青少年の育成のため、引き続きご協力をお願いいたします。

使途予定

- 子どもたちの支援(参加費減免・被災児支援福祉キャンプ)
- 青少年育成のための基金
- 国際協力活動のための基金など

YMCA各拠点にお持ちいただくか、WEBサイトからクレジットカード決済が可能です。

3月号で掲載予定でした募金の最終報告及び、募金者のご芳名は募金期間の延長に伴い、YMCA NEWS 5月号に掲載予定です。



12月に実施した街頭募金活動の様子

I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

YMCAこどもプログラム 新たなチャレンジをYMCAで

☎ Tel 096-353-6391



子ども
×
挑戦

春休みスポーツスクール&キャンプ

春休みのスポーツスクール、キャンプの申込みを受付中です。YMCAは子どもたちのチャレンジを応援します。ぜひお申込みください。



■スポーツスクール

●水泳 ●体操 ●サッカー ●ヒップホップ

■キャンプ

●3日間のデイキャンプ ●春のわくわく1泊キャンプ

●アウトドアクッキングキャンプ ●北海道ダイナミック

スキーキャンプ ●富士山の雄大な自然と神秘の溶岩洞窟を訪ねる旅

■その他

●春休みのおあずかり デイスクール ●プログラミング体験スクール



こども英会話 体験レッスン

YMCAこども英会話は実用的な英語力、多様性を受け入れるやさしさ、世界の人々と共生できる広いところを持つ地球市民の育成を目指しています。現在、無料体験レッスンを実施中。3月末までの入会で年間教材費が半額になります。



場 熊本YMCA本館、みなみセンター、
ながみねファミリーセンター、むさしセン
ター



こどもプログラム体験受付中

水泳、体操などのスポーツスクールやその他の通年プログラムも随時体験を受け付けています。まずはWebページからお申込みください。



日 日時 場 会場 内 内容 費 参加費 定 定員 案 参加条件 持 持ち物 対 対象 催 主催 締 締切 申 申込 問 問合せ 他 その他

卒業生から在校生に記念品贈呈

熊本YMCA学院に「ひぎんSDGs私募債」発行記念品の贈呈が行われました。「ひぎんSDGs私募債」とは、私募債を発行された企業が指定する団体や学校に対して、株式会社肥後銀行が寄付する取組みです。今回、建築科の28期卒業生である田中太一郎さんが代表取締役を務める株式会社ネオホームが「ひぎんSDGs私募債」を発行され、寄付先として熊本YMCA学院が指定されました。

1月16日(火)に贈呈式が行われ、記念品として建築科に金属探知機が寄贈されました。熊本地震や能登半島地震では、多くのコンクリートブロック塀が倒壊して被害が出ました。金属探知機は、壁体内に適正な鉄筋があるか否かを確認することが可能です。まずは小学校の通学路におけるコンクリートブロック塀内の調査を建築科で実施したいと考えています。



わたしと聖句

ヨハネによる福音書 3章16節

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである

あなたは高価で尊い存在

あなたは自分が、愛されている価値ある存在だと知っておられるでしょうか。この世では、多くの人が自分の価値を他者との比較で決めていきます。どのような学歴をもっているか、どんな仕事をしているか、大変な関心を持っています。どれほどの財産や地位や権力をもっているかを多くの人が気にしています。しかし、他者との比較で



日本ホーリネス教団熊本植木キリスト教会
吉田 文人

はいつまでたっても自分の本当の価値に気が付くことは出来ません。他者との比較では、一喜一憂の人生を送ることになってしまいます。

聖書は語ります。あなたはすでに高価で尊い存在だと。あなたが生きていることを神は心から喜んでおられると聖書は語ります。イエス・キリストは、約2千年前にあなたの全ての罪を身代わりに負って十字架で死なれました。ですから、あなたの全ての罪は赦されました。そして、イエス様は復活されて今もあなたと共におられます。イエス様はあなたのために死なれたほどに、あなたを愛しておられるのです。すでに愛されている、という人生をあなたに歩んでほしいと、イエス様は願っておられます。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)
発行人／光永 尚生 編集人／大塚 永幸
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2023年度基本聖句

マタイによる福音書 7章7節

求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。